

古文ドリル：敬語の訳し方 100問

対象：高校生・大学受験生（共通テスト～難関私大・国公立二次まで） **著作権：**個別指導塾フィット / 中本裕太

はじめに：敬語の訳し方ルール

古文の敬語は **現代語訳に正確に反映** させる必要がある。

敬語の種類	訳の形
尊敬語	お～になる／～なさる
謙譲語	お～する／～申し上げる／～いたす
丁寧語	～です／～ます／～ございます

訳し方の鉄則

尊敬語（動作主への敬意）

- 給ふ（四段） → ～なさる／お～になる
- おはす／おはします → いらっしゃる
- 仰す／のたまふ → おっしゃる
- 召す → お召しになる／お呼びになる
- 御覧ず → ご覧になる
- 大殿籠る → お休みになる
- 思す／思しめす → お思いになる
- きこしめす → お聞きになる／召し上がる
- あそばす → なさる（高貴な人の動作）
- 遣はす → 派遣なさる

謙譲語（動作の受け手への敬意）

- 奉る → 差し上げる
- 参る → 参上する／差し上げる
- 申す／聞こゆ → 申し上げる
- 仕うまつる／つかうまつる → お仕えする

- ・ 賜ふ（下二段） → いただく
- ・ 承る → お受けする／伺う
- ・ まかる／まかづ → 退出する／参上する

丁寧語（聞き手・読み手への敬意）

- ・ 侍り → ～ございます／～です／～ます
- ・ 候ふ／さぶらふ → ～ございます／～です／～ます

二重敬語（最高敬語）

形	訳
せたまふ／させたまふ	お～になる／～なさる
しめたまふ	お～なさる
仰せらる	おっしゃる
思しめす	お思いになる

→ 二重敬語は **天皇・皇族・摂関級** への最高敬意。

動詞別・尊敬/謙譲両用注意

動詞	尊敬	謙譲
奉る	召し上がる／お召しになる	差し上げる
参る	召し上がる（食事）	参上する／差し上げる
賜ふ	四段＝お与えになる（尊敬）	下二段＝いただく（謙譲）
給ふ	四段＝～なさる（尊敬）	下二段＝～いたす（謙譲・会話文のみ）

🎯 解き方のコツ（時短テクニック）

「識別の鉄則」は文法的に正しい順序。
 こちらは **試験本番で3秒で答えを出す** ための実戦テクニックです。

コツ① 敬語動詞の直訳パターンを丸暗記（語数限定なので最強）

入試で出るのは決まった敬語動詞だけ。形と訳の1対1対応を機械的に当てはめる：- 「のたまふ／仰す」→ おっしゃる - 「おはす／おはします」→ いらっしゃる - 「思ふ／思しめす」→ お思いになる - 「御覧ず」→ ご覧になる - 「奉る」→ 差し上げる（謙譲）／お召しになる（尊敬） - 「申す／聞こゆ」→ 申し上げる - 「侍り／候ふ」→ ～です・～ます

コツ② 二重敬語は「天皇・中宮」とほぼ確定

「せたまふ／させたまふ／しめたまふ」を見たら：- **動作主は天皇・皇族・摂関級** で固定 - 訳は「お～になる／～なさる」（ただの尊敬と同じ訳でOK、最高敬語のニュアンスは答案に書かなくてよい）

コツ③ 「給ふ」の活用で訳が分岐（最頻出）

- ・ 四段の「給ふ」→ 尊敬「～なさる」
- ・ 下二段の「給ふ」→ 謙譲「～いたす／～申し上げる」（会話・手紙中で「思ふ・見る・聞く・知る」に付く時のみ）

例：「見給ふる」（下二段連体形）→ 「拝見いたす」

コツ④ 「奉る」「参る」は食事・服装関連 だけ尊敬

- ・ 「酒を奉る」「衣を奉る」→ 「召し上がる／お召しになる」（尊敬）
- ・ 「参る」＋食事 → 「召し上がる」（尊敬）
- ・ それ以外の「奉る／参る」→ 謙譲（差し上げる／参上する）

試験本番でのチェック順序

1. 敬語動詞を特定し、**暗記した訳語** を当てはめる
2. 「給ふ」なら **活用形** で四段（尊敬）／下二段（謙譲）を判別
3. 「奉る・参る」なら **動作の内容** で尊敬／謙譲を判別
4. 「せたまふ」系を見たら最高敬語、訳は「～なさる」で統一
5. 補助動詞の場合は「お～になる／～申し上げる／～です」の形で接続

→ この順番で **3秒** で答えが出ます。

よくある引っかけ

- ・ 補助動詞の「給ふ」を「与える」と訳す → 補助動詞は「～なさる」
- ・ 「申す」を「言う」と訳す → 必ず「申し上げる」（謙譲を反映）
- ・ 「侍り」を「いる」と訳す → 補助なら「～です・～ます」、本動詞でも「お仕えする／ございます」
- ・ 二重敬語を訳に反映できない → 「お～になる」「～なさる」と尊敬の形を明示

採点表

- ・ 基礎 (Q1～Q20) : /20
- ・ 標準 (Q21～Q50) : /30
- ・ 応用 (Q51～Q80) : /30
- ・ 入試レベル (Q81～Q100) : /20
- ・ 合計 : /100

【第1部】 基礎編 (Q1～Q20)

主要敬語の基本訳。

Q1. 現代語訳せよ。

帝、御文書か**せたまふ**。

答え：「帝が、お手紙をお書きになる」 **解説**：「せたまふ」二重敬語（尊敬）。

Q2. 現代語訳せよ。

御文を**奉る**。

答え：「お手紙を差し上げる」 **解説**：「奉る」謙譲。「差し上げる」。

Q3. 現代語訳せよ。

「これは尊し」と**申す**。

答え：「『これは尊い』と申し上げる」 **解説**：「申す」謙譲。「申し上げる」。

Q4. 現代語訳せよ。

我れも参り**侍り**。

答え：「私も参上いたします（ございます）」 **解説**：「侍り」丁寧。「～います／いたします／ございます」。

Q5. 現代語訳せよ。

中宮、御文を御覧ず。

答え：「中宮が、お手紙をご覧になる」 解説：「御覧ず」 尊敬。「ご覧になる」。

Q6. 現代語訳せよ。

御所に参る。

答え：「御所に参上する」 解説：「参る」 謙譲。「参上する」。

Q7. 現代語訳せよ。

法皇、御幸おはす。

答え：「法皇が、御幸でいらっしゃる」 解説：「おはす」 尊敬。「いらっしゃる」。

Q8. 現代語訳せよ。

君に仕うまつる。

答え：「君にお仕えする（お仕え申し上げる）」 解説：「仕うまつる」 謙譲。

Q9. 現代語訳せよ。

上、仰せらる。

答え：「上が、おっしゃる」 解説：「仰す」 + 「らる」（尊敬）。二重敬語。

Q10. 現代語訳せよ。

大納言、御前に候ふ。

答え：「大納言が、御前に控えている／お仕えしている」 解説：「候ふ」（謙譲）。

Q11. 現代語訳せよ。

帝、御物の怪に苦しませたまふ。

答え：「帝が、物の怪にお苦しみになる」 解説：「せたまふ」二重敬語（尊敬）。

Q12. 現代語訳せよ。

我れ、御前に**まかる**。

答え：「私が、御前に参上する／退出する」 解説：「まかる」謙譲。文脈で「参上」「退出」が分かる。

Q13. 現代語訳せよ。

院、**大殿籠る**。

答え：「院が、お休みになる」 解説：「大殿籠る」尊敬の特殊形（寝る）。

Q14. 現代語訳せよ。

御物を**賜ふ**（下二段）。

答え：「御物をいただく」 解説：「賜ふ」下二段は謙譲。「いただく」。

Q15. 現代語訳せよ。

「いま参り**候ふ**」と申す。

答え：「『いま参上いたします』と申し上げる」 解説：「候ふ」丁寧＋「申す」謙譲。

Q16. 現代語訳せよ。

中宮、御文書か**せたまふ**を、人にも見せ**させたまふ**。

答え：「中宮が、お手紙をお書きになって、人にもお見せになる」 解説：両方とも尊敬の二重敬語。

Q17. 現代語訳せよ。

帝、御覧ぜ**させたまふ**。

答え：「帝が、ご覧になる」 解説：「させたまふ」は最高敬語（二重尊敬）。「御覧ず」自体も尊敬語で、それに二重尊敬を重ねた表現。なお、主語が最高位の人物でない場合は「使役＋尊敬（～させ

なさる)」となる場合もあり、文脈で判別する。

Q18. 現代語訳せよ。

御簾を上げ**させたまへ**。

答え：「御簾をお上げください／お上げになる」（命令） **解説**：「させたまふ」命令形。お命じになる尊敬の命令。

Q19. 現代語訳せよ。

御供仕うまつり**侍り**。

答え：「お供申し上げております／お供させていただいております」 **解説**：「仕うまつる」謙讓＋「侍り」丁寧。

Q20. 現代語訳せよ。

法皇、御使ひを**遣はす**。

答え：「法皇が、御使いを派遣なさる」 **解説**：「遣はす」尊敬の特殊形。

基礎編 / 20

【第2部】標準編（Q21～Q50）

両用語・複合敬語・特殊敬語。

Q21. 現代語訳せよ。

帝、御酒を**参る**。

答え：「帝が、お酒を召し上がる」 **解説**：「参る」は飲食では尊敬「召し上がる」。両用注意。

Q22. 現代語訳せよ。

上、御衣を**奉る**。

答え：「上が、お召し物をお召しになる」 解説：「奉る」は衣服では尊敬「お召しになる」。

Q23. 現代語訳せよ。

中将、御琴をいと美しく弾き給ふ。

答え：「中将が、お琴をたいそう美しくお弾きになる」 解説：「給ふ」四段＝尊敬「～なさる／お～になる」。

Q24. 現代語訳せよ。(会話文)

「我れもさ思ひたまふる」

答え：「私もそう思っております」 解説：「たまふる」(下二段「給ふ」連体形)は謙譲の補助動詞で、会話文(または手紙)でのみ用いる。文法的には謙譲だが、訳す際は丁寧の「～ております／～ます」で取るのが定番。動作の対象を高めるよりも、聞き手に対する丁重さを表す。

Q25. 現代語訳せよ。

殿、御文を賜ふ(四段)。

答え：「殿が、お手紙をお与えになる(くださる)」 解説：「賜ふ」四段＝尊敬「お与えになる／くださる」。

Q26. 現代語訳せよ。

我れ、御文を賜はり。

答え：「私が、お手紙をいただいた」 解説：「賜はる」(受身的・謙譲)。「いただく」。

Q27. 現代語訳せよ。

帝、御覧じて仰せらる。

答え：「帝が、ご覧になっておっしゃる」 解説：「御覧ず」(尊敬)＋「仰せらる」(尊敬二重)。

Q28. 現代語訳せよ。

大臣、御位を**奉ら**んとす。

答え：「大臣が、御位を差し上げよう（譲ろう）とする」 解説：「奉る」謙譲。受け手（高位の方）を敬う。

Q29. 現代語訳せよ。

「いまや**まかり出**で侍りなむ」

答え：「いまや退出いたしましょう」 解説：「まかり出づ」謙譲（退出する）＋「侍り」丁寧。

Q30. 現代語訳せよ。

御前に**さぶらふ**人々、皆寝入りぬ。

答え：「御前に控えている人々は、皆寝入ってしまった」 解説：「さぶらふ」（候ふ）は謙譲（控える）。

Q31. 現代語訳せよ。

中宮、御物語をいと**愛でさせたまふ**。

答え：「中宮が、物語をたいそうおほめになる／お賞美になる」 解説：「させたまふ」二重敬語。

Q32. 現代語訳せよ。

君、御覧**ぜらる**らむ。

答え：「君が、ご覧になっているだろう」 解説：「御覧ず」（尊敬）＋「らる」（尊敬）。

Q33. 現代語訳せよ。

「**承り**侍りぬ」と申す。

答え：「『承りました（お受けいたしました）』と申し上げる」 解説：「承る」謙譲（受ける）＋「侍り」丁寧＋「申す」謙譲。

Q34. 現代語訳せよ。

院、御僧の事聞こしめしけり。

答え：「院が、御僧のことをお聞きになった」 解説：「聞こしめす」 尊敬（聞くの尊敬）。

Q35. 現代語訳せよ。

我れ、御前に御文を聞こえつ。

答え：「私が、御前にお手紙を申し上げた」 解説：「聞こゆ」 謙譲（「言ふ」の謙譲）。

Q36. 現代語訳せよ。

「これ、御覧じ候へ」

答え：「『これ、ご覧くださいませ』」 解説：「御覧ず」 尊敬＋「候へ」 丁寧の命令形。

Q37. 現代語訳せよ。

帝、御もてあそびの御物かしこく召したり。

答え：「帝が、お遊び道具を畏れ多くもお取り寄せになった」 解説：「召す」 尊敬（呼ぶ・取り寄せる）。

Q38. 現代語訳せよ。

「殿は今、御寝なる」

答え：「殿は今、お休みになっている」 解説：「御寝なる」 尊敬（お休みになる）。「大殿籠る」と同義。

Q39. 現代語訳せよ。

上、御遊びをあそばす。

答え：「上が、管弦のお遊びをなさる」 解説：「あそばす」 尊敬（高貴な人の動作・特に遊芸）。

Q40. 現代語訳せよ。

中宮、御髪を梳^かりせたまふ。

答え：「中宮が、御髪をお梳きになる」 解説：「せたまふ」二重敬語。

Q41. 現代語訳せよ。

「君のおほせのこと、承^うりて侍^うり」

答え：「『君のおおせのこと、承っております（お受けしております）』」 解説：「承る」謙譲＋「侍り」丁寧。

Q42. 現代語訳せよ。

帝、御物の怪に悩^{なや}みたまふを、皇后いと心苦しと思^{おも}しめす。

答え：「帝が、物の怪にお悩みになるのを、皇后はたいそうお気の毒だと思いになる」 解説：「たまふ」尊敬＋「思しめす」尊敬（「思ふ」の尊敬）。

Q43. 現代語訳せよ。

御使ひ、御物を奉^{ほう}りて、退き出づ。

答え：「お使いが、お品を差し上げて、退出する」 解説：「奉る」謙譲＋「て」接続。

Q44. 現代語訳せよ。(会話文)

「我れ、君のために仕^しうまつり侍^うらばや」

答え：「『私が、君のためにお仕えしたいものでございます』」 解説：「仕うまつる」謙譲＋「侍り」丁寧＋「ばや」（願望）。

Q45. 現代語訳せよ。

大納言、いとたけ高くおはす。

答え：「大納言は、たいそう背がお高くいらっしゃる」 解説：「おはす」尊敬（あり・いるの尊敬）。

Q46. 現代語訳せよ。

上、御覧じつけて、**仰せ**らる。

答え：「上が、お見つけになって、おっしゃる」 **解説**：「御覧ず」尊敬＋「仰せらる」二重尊敬。

Q47. 現代語訳せよ。

「我が宿に**まかりたり**しに、人もなし」

答え：「『私の家に下って（退出して）行ったところ、人もいなかった』」 **解説**：「まかる」謙譲（参上・退出）。文脈で「下って行く」。

Q48. 現代語訳せよ。

中宮、御湯**召したり**。

答え：「中宮が、お風呂を召された（お入りになった）」 **解説**：「召す」尊敬（取り寄せる・利用なさる）。

Q49. 現代語訳せよ。

院、御物を**賜はせたまふ**。

答え：「院が、御品をお与えになる（くださる）」 **解説**：「賜はす」（賜ふ＋す尊敬）＋「たまふ」尊敬。最高敬語の重ね。

Q50. 現代語訳せよ。

「**畏まり侍り**」と申す。

答え：「『かしこまりました』と申し上げる」 **解説**：「畏まる」（恐縮する）＋「侍り」丁寧＋「申す」謙譲。

【第3部】 応用編（Q51～Q80）

複合・係り結び・物語表現。

Q51. 現代語訳せよ。

帝、御琴を**あそばす**を、中宮、御簾の内にて**聞こしめす**。

答え：「帝が、お琴をお弾きになるのを、中宮が、御簾の内でお聞きになる」 **解説：**「あそばす」「聞こしめす」両方尊敬。

Q52. 現代語訳せよ。

「**承り**侍りて、いと心嬉しく思ひ**たまふる**」

答え：「『承りまして、たいそう嬉しく思っております』」 **解説：**「承る」謙譲＋「侍り」丁寧＋「たまふる」（下二段謙譲・会話文）。

Q53. 現代語訳せよ。

御使ひ、**まかりまうで**て、御文を**奉る**。

答え：「お使いが、退出参上して、お手紙を差し上げる」 **解説：**「まかり」謙譲＋「まうづ」謙譲（参上）＋「奉る」謙譲。

Q54. 現代語訳せよ。

上、いと**畏き御心**にて、**思しめしめぐらす**。

答え：「上は、たいそう畏れ多いお心で、お考えめぐらしになる」 **解説：**「思しめす」尊敬（思うの尊敬）。

Q55. 現代語訳せよ。

「**御覧ぜさせたまへ**」

答え：「『ご覧くださいませ／ご覧になってください』」 **解説：**「御覧ず」尊敬＋「させたまふ」二重尊敬の命令。

Q56. 現代語訳せよ。

大臣、御位を奉らせたまふ。

答え：「大臣が、御位を差し上げなさる」 解説：「奉る」謙譲＋「せたまふ」尊敬二重（動作主への敬意）。謙譲＋尊敬の重複。

Q57. 現代語訳せよ。

「我れも参り候はむ」

答え：「『私も参上いたしましょう』」 解説：「参る」謙譲＋「候は」（候ふ未然）丁寧＋「む」推量・意志。

Q58. 現代語訳せよ。

帝、御物思はしげにおはましける。

答え：「帝は、何か物思いをしていらっしゃる様子でいらっしゃった」 解説：「おはします」尊敬（おはすの強調形）。

Q59. 現代語訳せよ。

中宮、ものもおほせられず。

答え：「中宮は、ものもおっしゃらない」 解説：「仰せらる」二重尊敬＋打消「ず」。

Q60. 現代語訳せよ。

御使ひ、まかり帰りぬ。

答え：「お使いが、退出して帰ってしまった」 解説：「まかる」謙譲（退出）＋完了「ぬ」。

Q61. 現代語訳せよ。

「君は、いま御寝にて侍る」

答え：「『君は、いまお休みでございます』」 解説：「御寝なり」尊敬＋「侍る」丁寧。

Q62. 現代語訳せよ。

帝、御琴を召して、御前にてあそばす。

答え：「帝が、お琴をお取り寄せになって、御前でお弾きになる」 解説：「召す」尊敬（取り寄せる）＋「あそばす」尊敬。

Q63. 現代語訳せよ。

上、御心地いと苦しく思しめすを、かしこく慰め奉る。

答え：「上が、ご気分がたいそう苦しくお思いになるのを、恐れ多くもお慰め申し上げる」 解説：「思しめす」尊敬＋「奉る」謙譲（補助動詞）。

Q64. 現代語訳せよ。

「御覧じつけて、笑ませたまふ」

答え：「『お見つけになって、お笑いになる』」 解説：「御覧ず」尊敬＋「せたまふ」二重尊敬。

Q65. 現代語訳せよ。(会話文)

「承り侍れば、いとかたじけなく思ひたまふる」

答え：「『承りますと、たいそう恐れ多く思っております』」 解説：「承る」謙譲＋「侍り」丁寧＋「たまふる」謙譲（会話）。

Q66. 現代語訳せよ。

院、御文を遣はす。

答え：「院が、お手紙を遣わしになる（送りなさる）」 解説：「遣はす」尊敬（送るの尊敬）。

Q67. 現代語訳せよ。

大納言、御前にさぶらひて、御物語申し上ぐる。

答え：「大納言が、御前にお仕えして、お話を申し上げる」 解説：「さぶらふ」謙譲＋「申し上ぐる」謙譲。

Q68. 現代語訳せよ。

「いとかしこき御方なれば、畏まり侍る」

答え：「『たいそう恐れ多いお方なので、かしこまっております』」 解説：「畏まる」＋「侍る」丁寧。

Q69. 現代語訳せよ。

中宮、御文を御覧じて、いみじく愛でたまふ。

答え：「中宮が、お手紙をご覧になって、たいそうおほめになる」 解説：「御覧ず」尊敬＋「たまふ」尊敬補助。

Q70. 現代語訳せよ。

「まうで来つ。仕うまつるべきこと侍らば」

答え：「『参上してまいりました。お仕え申し上げるべきことがございましたら…』」 解説：「まうで来」謙譲＋「仕うまつる」謙譲＋「侍ら」丁寧。

Q71. 現代語訳せよ。

上、御物の怪にて、苦しめたまふを、皇后夜昼御祈祷せさせたまふ。

答え：「上が、物の怪のため、お苦しみになるのを、皇后が夜昼お祈祷をおさせになる」 解説：「せたまふ」二重尊敬（重複）。

Q72. 現代語訳せよ。

「御覧ぜさせ奉らばや」

答え：「お見せ申し上げたい」 解説：「御覧ぜ」（サ変「御覧ず」未然形）＋「させ」（使役）＋「奉ら」（謙譲補助動詞「奉る」未然形）＋「ばや」（願望終助詞）。動作主が目上の方にお見せする意で「お見せ申し上げたい」「拝見いただきたい」と訳す。

Q73. 現代語訳せよ。

帝、かしこく御心を動かしたまふ。

答え：「帝は、たいそうお心をお動かしになる」 解説：「たまふ」 尊敬（補助動詞）。

Q74. 現代語訳せよ。

「御物を賜はり侍りぬ」

答え：「『御品をいただきました』」 解説：「賜はる」（受身的謙譲）＋「侍り」丁寧。

Q75. 現代語訳せよ。

御乳母、若君を抱き奉りて、まかり出づ。

答え：「お乳母が、若君をお抱き申し上げて、退出する」 解説：「奉る」謙譲（補助動詞）＋「まかり出づ」謙譲。

Q76. 現代語訳せよ。

中宮、御簾のうちにて、ものを仰せらるるを、え聞こえず。

答え：「中宮が、御簾の内で何かおっしゃるのを、よく聞き取れない（×聞こえる）」 解説：「聞こえず」は「聞こゆ」打消で「聞こえない」。謙譲の「聞こゆ」との区別注意。接続助詞「を」の前なので「らる」は連体形「らるる」。

Q77. 現代語訳せよ。

「さやうに仕うまつるべきやうにても侍らず」

答え：「『そのようにお仕え申し上げるべきわけでもございませぬ』」 解説：「仕うまつる」謙譲＋「侍り」丁寧。

Q78. 現代語訳せよ。

帝、御湯を召して、入らせたまふ。

答え：「帝が、お風呂をお取り寄せになって、お入りになる」 解説：「召す」尊敬＋「せたまふ」二重尊敬。

Q79. 現代語訳せよ。

院、御衣を奉りて、御所より出でさせたまふ。

答え：「院が、お召し物をお召しになって、御所からお出かけになる」 解説：「奉る」（衣服）尊敬＋「させたまふ」二重尊敬。

Q80. 現代語訳せよ。

「まかり侍りて、承りたることを申し侍らむ」

答え：「『退出いたしまして、承ったことを申し上げます』」 解説：「まかる」謙譲＋「侍り」丁寧＋「承る」謙譲＋「申す」謙譲。

応用編 / 30

【第4部】入試レベル（Q81～Q100）

源氏物語・枕草子など難関大頻出箇所。

Q81. 現代語訳せよ。（源氏物語・桐壺）

いづれの御時にか、女御、更衣あまた候ひたまひける中に…

答え：「どの帝の御代であったか、女御や更衣が多くお仕えしていらっしゃった中に」 解説：「候ふ」謙譲＋「たまふ」尊敬。

Q82. 現代語訳せよ。（源氏物語・桐壺）

いとやむごとなき際にはあらぬが、すぐれて時めきたまふありけり。

答え：「それほど高貴な身分ではない方で、格別に帝のご寵愛を受けていらっしゃる方がいた」 解説：「たまふ」尊敬。

Q83. 現代語訳せよ。（源氏物語・桐壺）

はじめより我はと思ひ上がりたまへる御方々、めざましきものにおとしめそねみたまふ。

答え：「初めから自分こそはと自負していらっしゃるお方々は、(桐壺更衣を) 目障りなものと見下し嫉妬なさる」 解説：「たまへる」「たまふ」 尊敬補助動詞。

Q84. 現代語訳せよ。(枕草子・第一段)

夏は夜。月の頃はさらなり、闇もなほ、螢の多く飛び違ひたる、また、ただ一つ二つなど、ほのかにうち光りて行くもをかし。雨など降るもをかし。

答え：(敬語を含まない、参考問題) 解説：枕草子冒頭は敬語を含まない描写。識別の引っ掛け。

Q85. 現代語訳せよ。(枕草子・香炉峰の雪)

「少納言よ、香炉峰の雪、いかならむ」と仰せらるれば、御格子上げさせて、御簾を高く上げたれば、笑はせたまふ。

答え：「『少納言よ、香炉峰の雪はどうだろう』とおっしゃるので、御格子を上げさせて、御簾を高く上げると、(中宮が) お笑いになる」 解説：「仰せらる」 尊敬二重+「笑はせたまふ」 尊敬二重。

Q86. 現代語訳せよ。(源氏物語・若紫)

「雀の子を犬君が逃がしつる。伏籠の内に込めたりつるものを」とて、いと口惜しと思へり。

答え：(謙譲・尊敬を含まない、参考問題) 解説：紫の上(若紫)の発言。敬語なし。

Q87. 現代語訳せよ。(伊勢物語・東下り)

「これなむ都鳥」と言ふを聞きて、…と詠めりければ、舟こぞりて泣きにけり。

答え：「『これが都鳥だ』と(渡守が)言うのを聞いて、…と詠んだので、舟中こぞって泣いてしまった」 解説：敬語を含まない地の文。

Q88. 現代語訳せよ。(土佐日記)

京に思ふ人なきにしもあらず。さるは、便りごとに物も絶えず得しかど。

答え：(敬語を含まない、参考問題) 解説：土佐日記。敬語なし。

Q89. 現代語訳せよ。(大鏡)

御年四十二にて隠れさせたまひにしかば、御諡を村上の御門と申す。

答え：「御年四十二でお亡くなりになったので、御諡号を村上の帝と申し上げる」 解説：「させたまふ」二重尊敬＋「申す」謙譲。

Q90. 現代語訳せよ。(大鏡)

入道殿、このことをいとねたく思しめしけり。

答え：「入道殿は、このことをたいそう悔しくお思いになった」 解説：「思しめす」尊敬（思うの尊敬）。

Q91. 現代語訳せよ。(源氏物語・桐壺)

上達部、上人なども、あいなく目をそばめつつ、「いとまばゆき人の御おぼえなり。唐土にも、かかる事の起こりにこそ、世も乱れあしかりけれ」と、…もてなやみぐさになりて、楊貴妃のためしも引き出でつべくなりゆく。

答え：（複雑な地の文。要約訳）「上達部や殿上人も、なんとなく目をそらしながら、『たいそう見ていられないほどの帝のご寵愛だ。唐土でも、こうした事の起こりに、世も乱れて困ったことだった』と、…困りものになって、楊貴妃の例も引き合いに出されそうな状態になっていく」 解説：「もて」（接頭・強調）。敬語は限定的。

Q92. 現代語訳せよ。(源氏物語・桐壺)

はじめより我はと思ひ上がりたまへる御方々、めざましきものにおとしめそねみたまふ。同じほど、それより下臈の更衣たちは、まして安からず。

答え：「初めから自分こそはと自負していらっしゃるお方々は、（桐壺更衣を）心外なものに見下し嫉妬なさる」（Q83と同様） 解説：「たまへる」「たまふ」尊敬。Q83と関連。

Q93. 現代語訳せよ。(枕草子・第百四十六段)

「御覧じたれ」とて、御ふみを奉る。

答え：「『ご覧になりました』と言って、お手紙を差し上げる」 解説：「御覧ず」尊敬＋「奉る」謙譲。

Q94. 現代語訳せよ。(大鏡・道長)

太政大臣道長、御年六十二にておはしましけるが、いみじく盛りに栄えたまひけり。

答え：「太政大臣道長は、御年六十二歳でいらっしゃったが、たいそう盛大にお栄えになっていた」

解説：「おはします」尊敬＋「たまふ」尊敬。

Q95. 現代語訳せよ。(源氏物語・夕顔)

「夕顔と申し侍る人を、申したり」

答え：「『夕顔と申しております人のことを、申し上げた』」 解説：「申し」謙譲＋「侍る」丁寧＋「申し」謙譲の三つの敬語が並ぶ。「申す」は「言ふ」の謙譲、「侍り」は丁寧の補助動詞。

Q96. 現代語訳せよ。(源氏物語・夕顔)

「心あてにそれかとぞ見る白露の光添へたる夕顔の花」とのみ申したりければ、…

答え：「『心あてに（あの方かと）それかと見るのです。白露の光が添えている夕顔の花を』とだけ申し上げたところ」 解説：「申す」謙譲。

Q97. 現代語訳せよ。(徒然草・第五十二段)

仁和寺にある法師、年寄るまで石清水を拝まざりければ、心憂く覚えて、ある時、思ひ立ちて、ただひとり、徒歩より詣でけり。

答え：「仁和寺にいた法師が、年を取るまで石清水（八幡宮）を参拝していなかったので、残念に思っ
て、ある時、思い立って、ただ一人、徒歩で参詣した」 解説：「詣で」謙譲。

Q98. 現代語訳せよ。(更級日記)

あづま路の道のはてよりも、なほ奥つかたに生ひ出でたる人、いかばかりかは怪しかりけむ
を、いかに思ひはじめけることにか、世の中に物語といふもののあなるを、いかで見ばやと思
ひつつ、…

答え：（敬語を含まない、参考問題） 解説：更級日記冒頭。自分自身（菅原孝標女）の話なので敬語なし。

Q99. 現代語訳せよ。(平家物語・敦盛最期)

「あつらひ奉らむ」と申しければ、…熊谷、「あはれ、弓矢取る身ほど口惜しかりける事はなし。…」とて、ふたたび取つて返し、…情けなき事は、よろづにつけて心苦し。

答え：「『お助け申し上げよう』と申し上げると、…熊谷は『ああ、弓矢を取る身ほど辛いことはない…』と言って、再び引き返した」 解説：「奉る」謙譲＋「申す」謙譲。

Q100. 現代語訳せよ。(源氏物語・桐壺・冒頭の全体)

いづれの御時にか、女御、更衣あまた候ひたまひける中に、いとやむごとなき際にはあらぬが、すぐれて時めきたまふありけり。はじめより我はと思ひ上がりたまへる御方々、めざましきものにおとしめそねみたまふ。同じほど、それより下臈の更衣たちは、まして安からず。朝夕の宮仕へにつけても、人の心をのみ動かし、恨みを負ふ積もりにや、いと篤しくなりゆき、もの心細げに里がちなを、いよいよあかずあはれなるものに思ほして、人のそしりをもえ憚らせたまはず、世のためしにもなりぬべき御もてなしなり。

答え：「どの帝の御代であったか、女御や更衣がたくさんお仕えしていらっしゃった中に、それほど高貴な身分ではないが、とりわけご寵愛を受けていらっしゃる方がいた。初めから自分こそはと自負していらっしゃるお方々は、目障りなものと見下し嫉妬なさる。同じ身分、それより下位の更衣たちは、なおさら穏やかではない。朝夕の宮仕へにつけても、人の心ばかりを掻き乱し、恨みを買うことが重なったのか、たいそう病気がちになり、なんとなく心細げに実家に帰りがちなのを、いよいよ飽くことなく愛おしいものとお思いになって、人の非難をもおさし控えになることができず、世の語り草にもなってしまうようなお扱いである」 解説：「候ひたまひける」謙譲＋尊敬。「時めきたまふ」「思ひ上がりたまへる」「おとしめそねみたまふ」「思ほす」「え～たまはず」など多重敬語の連続。源氏物語冒頭・最頻出。

入試レベル編 /20

採点振り返り

- 基礎 (Q1～Q20) : /20
- 標準 (Q21～Q50) : /30
- 応用 (Q51～Q80) : /30
- 入試レベル (Q81～Q100) : /20
- 合計 : /100

あとかぎ

敬語の訳し方の核心： - **尊敬**：お～になる／～なさる（動作主への敬意） - **謙譲**：お～する／～申し上げる（受け手への敬意） - **丁寧**：～です／～ます／～ございます（聞き手への敬意）

二重敬語は最高位の敬意。両用語（奉る・参る・賜ふ・給ふ）の文脈判別が難関。

古文現代語訳の **絶対必須スキル**。

著作権：個別指導塾フィット / 中本裕太

© 個別指導塾フィット / 中本裕太 <https://kotenosennsei.com>